**＜医師用＞**

**意見書**

園児氏名

病名「　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」

　　　　年　　　月　　　日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。

　　　　　　年　　　　月　　　　日

医療機関

医師名　　　　　　　　　　　　　　　印又はサイン

感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、園児一人ひとりが一日快適に生活できるよう、下記の感染症について意見書の提出をお願いします。

　感染力のある期間に配慮し、子どもの健康回復状態が集団での園生活が可能な状態となってからの登園であるようご配慮下さい。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **○意見書が必要な感染症** | |  |
| **病名** | **感染しやすい期間** | **登園のめやす** |
| 麻しん（はしか） | 発症1日前から発しん出現後の4日後まで | 解熱後3日を経過してから |
| インフルエンザ | 症状が有る期間（発症前24時間から発症後3日程度までが最も感染力が強い） | 発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児（乳幼児）にあっては、3日を経過するまで） |
| 風しん | 発しん出現の前7日から後7日間くらい | 発しんが消失してから |
| 水痘（水ぼうそう） | 発しん出現１～2日前から痂皮形成まで | すべての発しんが痂皮化してから |
| 流行性耳下腺炎　　　　　　　　（おたふくかぜ） | 発症3日前から耳下腺腫脤後4日 | 耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脤が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで |
| 結核 |  | 医師により感染の恐れがないと認めるまで |
| 咽頭結膜熱（プール熱） | 発熱、充血等症状が出現した数日間 | 主な症状が消え2日経過してから |
| 流行性角結膜炎 | 充血、目やに等症状が出現した数日間 | 感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから |
| 百日咳 | 抗菌薬を服用しない場合、咳出現後3週間を経過するまで | 特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで |
| 腸管出血性大腸菌感染症 |  | 症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48時間をあけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの |
| （Ｏ157・Ｏ26・Ｏ111等） |  |
| 急性出血性結膜炎 | ウィルスが呼吸器から1～2週間、便から数週間～数ヶ月排出される | 医師により感染の恐れがないと認めるまで |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 |  | 医師により感染の恐れがないと認めるまで |
| その他 |  |  |